

5 地域価値創造プロジェクト

行川 一郎

(1) グローバルとローカルの融合をめざして

① アクションテーマ

2013年度は国際経営研究所においてグローカル(GLOCAL)を基本テーマに設置した。今後もグローバルとローカルの融合をめざして研究していく。

② 研究活動およびプロジェクトのめざすもの

行政機関、私企業、教育研究機関のそれぞれの立場で、グローバルなつながりへの発信と実体の活動の中でのローカルを意識することが今後ますます求められていくというのがここにおける基本的認識である。それらを有機的に結びつけ、協働を支援するのはとりもおさず中立的かつ先進的な立場を具備している研究機関なはずであり、未来に向けた活動をするのが神奈川大学研究所としての役割と認識するものである。

従前より行川研究室によるマーケティング研究の立場から平塚市との交流を行ってきた経緯を踏まえ、2014年度からは平塚市産業活性化に関して国際経営研究所として地域連携、産官学連携の強化に努めている。その発展形として「地域経済の再生と中小企業—地域の時代におけるビジネス創造」を基点とした地域価値創造プロジェクトを推進していく。当該計画項目は国際経営所のさまざまな活動のなかで国際経営研究所所長としてプロジェクト編成をおこなっていくものである。

③ 地域価値創造のために“地域”(ローカル)をどう考えるか

はしがきにもある通り、「湘南学構想研究会」として湘南ひらつかを検証する取り組みがわれわれにおいて行われてきた。地域を知り、価値を創造するための手がかりとして

行川の2011年11月30日(水)講義概要を次ページに記載し、地域(当該

講義においては横浜、神奈川、平塚をローカルな視点として位置づけを学生たちにどう教えてきたかについて紹介する。これはいわば地域価値創造につなげるためにどう地域を知り、みるためかというグローバルとローカルを融合する研究に関する端緒ともいえるものである。

(2) 神奈川と湘南 — 産業と経済を考える —

① 神奈川と湘南

神奈川と湘南

消費と流通／産業と経済を考える

- 神奈川県は東京都に次ぐ日本でNo.2の人口 (894万)
- 県内に 商業、工業、住宅、農業の地域を擁する
- 地元商工業地域で働く人と東京圏で働く人が混在

昼夜間人口比率
91.5%

② 神奈川の特徴をヒントに

神奈川の特徴をヒントに

・神奈川県民は

圧倒的な活力をもつ
広域型生活圏の人々
⇒ 東京都への流入人口が104万人

コミュニティへの愛着が希薄

③ 神奈川の消費と経済

神奈川の消費と経済

活力

総合・製造品出荷額等

順位	市町村名	総合・製造品 出荷額等[百 万円]データ
1	川崎市	3,473,586
2	横浜市	3,288,715
3	相模原市	1,007,991
4	平塚市	927,598
5	藤沢市	865,249
6	横須賀市	701,476
7	小田原市	629,683
8	厚木市	585,895
9	鎌倉市	498,276
10	秦野市	469,952

総合・年間商品販売額

順位	市町村名	総合・年間商 品販売額[百 万円]データ
1	横浜市	3,719,410
2	川崎市	1,165,892
3	相模原市	613,231
4	藤沢市	417,841
5	横須賀市	389,767
6	厚木市	280,082
7	平塚市	267,780
8	小田原市	243,612
9	大和市	229,483
10	鎌倉市	177,959

www.patmap/city/より

④ 神奈川の消費と経済

神奈川の消費と経済

【表1】1ヶ月の平均消費支出
(二人以上の世帯)

順位	都道府県	消費支出(円)	地域差*
1	富山県	344,212	114.4
2	神奈川県	329,004	109.3
3	奈良県	327,550	108.8
4	東京都	323,407	107.5
5	滋賀県	323,344	107.4

*:全国平均(300,938円)=100として換算

【表2】世帯あたり家計資産
(二人以上の世帯)

順位	都道府県	家計資産(万円)	地域差*
1	東京都	5909	164.7
2	神奈川県	4943	137.8
3	愛知県	4423	129.3
4	栃木県	4001	111.5
5	香川県	3880	108.1

*全国平均(3588万円)=100として換算

【表3】県外での購入割合
(二人以上の世帯)

順位	都道府県	他の市町村(県外)での購入割合(%) 〔消費支出〕
1	奈良県	15.9
2	埼玉県	13.4
3	神奈川県	13.0
4	茨城県	11.2
4	滋賀県	11.2

⑤ 神奈川で生活する人々

神奈川で生活する人々

神奈川の優れた消費経済力



地域発展／コミュニティ活性化
成果が期待できる

⑥ 湘南地域での取り組みの現状

湘南地域での取り組みの現状

基礎
知識

平塚市	人口 26万人	67.8km ²
	人口密度 3819人/km ²	
茅ヶ崎市	人口 23.5万人	35.7km ²
	人口密度 6611人/km ²	
藤沢市	人口 41万人	69.5 km ²
	人口密度 5697人/km ²	
秦野市	人口 16.8万人	103km ²
	人口密度 1640人/km ²	

※参考 **横浜市** 人口 369万人 435km²
人口密度 8487人/km²

出所:各種行政機関 HP

⑦ 湘南地域での取り組みの現状

湘南地域での取り組みの現状

基礎
知識

平塚市	人口 26万人	67.8km ²	人口密度 3819人/km ²
	昼夜間人口比率 約 101 %		
茅ヶ崎市	人口 23.5万人	35.7km ²	人口密度 6611人/km ²
	昼夜間人口比率 約 79 %		
藤沢市	人口 41万人	69.5 km ²	人口密度 5697人/km ²
	昼夜間人口比率 約 95 %		
秦野市	人口 16.8万人	103km ²	人口密度 1640人/km ²
	昼夜間人口比率 約 83 %		

※参考 **横浜市** 人口 369万人 435km² 人口密度 8487人/km²
昼夜間人口比率 約90 %

昼夜間人口比率が100%以上→昼間の方が人口が多い(最大:千代田区2000%)

⑧ 湘南地域での取り組みの現状

湘南地域での取り組みの現状

基礎知識 - - - 即ち各地域の特性を
踏まえた上で
取り組みの現状と
発展可能性を考えていこう

⑨ 湘南地域での取り組みの現状

湘南地域での取り組みの現状

【例】平塚 梅屋・本館の閉店 (神奈川新聞 2011.8.2)



昭和スタイル終焉の現実

ポイント: 大型店依存型商店街の限界
独立型百貨店の限界

地域発展は駅ビルが「魅力」?

⑩ 湘南地域での取り組みの現状

湘南地域での取り組みの現状

【例】秦野商店街の取り組み(神奈川新聞 2010.6.30)

手作りの活性化努力

ポイント: 地元密着

ふれあい

情報発信による浸透必須

発展には継続性が必要

⑪ 湘南地域での取り組みの現状

湘南地域での取り組みの現状

【例】テラスモール湘南 **open**(神奈川新聞 2011.11.9)

ショッピングモールの盛況を加速？

ポイント: 商圈の広さと集客力

テナント数と個店の魅力

話題性とモールの個性

競合者や弱点への対応次第

⑫ 湘南地域での取り組みの現状

湘南地域での取り組みの現状

参考情報

	《敷地面積㎡	店舗数》
テラスモール湘南	63,000	281
ららぽーと新三郷	85,200	約 180
ららぽーと横浜	102,002	約 370
トレッサ横浜	71,000	約 220
玉川高島屋SS	91,020	約 340
ラゾーナ川崎	72,013	約 290

横浜そごう 横浜新都市ビル 約**18,000** 延床約**75,000**㎡

⑬ 地域活性化の課題

地域活性化の課題

対応は？

◆商業基盤

かつての「商圈」の現実

◆工業基盤

産業構造変化の影響

地域活性化の課題

◆ショッピングセンター
-----多くのプランは
ディベロッパーの不動産投資計画など

都市の総合的で計画的な発展実現は
住民中心の発想
有能で長期的視点の行政力が鍵

地域活性化の課題

◆商業の振興

◆工業の振興

◆観光レジャー都市への道

他の道も ---

⑩ 活性化の鍵とは

活性化の鍵とは

都市社会

